

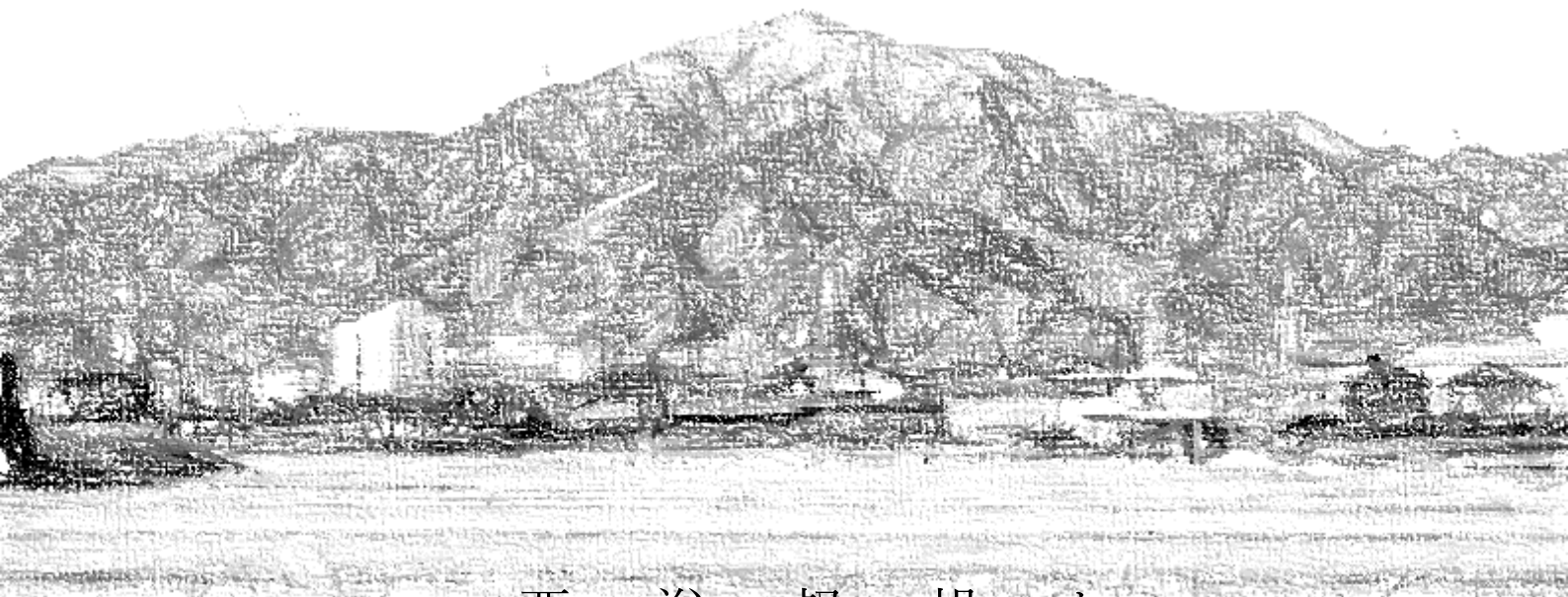
みどり通信

第58号
2026年8月1日

2026

8

令和8 葉月



お盆の迎え火

胡瓜の馬

叔父さんが帰る

浴衣を着て

西瓜を供える

東

「あの人に会いたい！」

あきのふみこ

40 年近く前から知り会った人もいる。

泉谷さんという息子さんを亡くされた人がいた。

賛助会員で長い間、名簿に名前があった。

私が 80 を過ぎ、病気をし施設住まいになった。

施設見学をしながら面会してもらうことも最近、出来るようにはなった。

11 月に橋本である県民の集いに私が何とか行ければ良いことだ。

橋本は施設からもビルが見えている。

「終戦の日 私は」

秋野文子

私は1歳半、掛川の母方の祖母の家にいた。

東南海地震の直後から祖母の元に預かってもらっていた。祖母は小学校教師だったので、成人したばかりの叔母に看てもらってました。

3月に東京大空襲、6月には浜松大空襲で父母のいた自宅が焼けた。

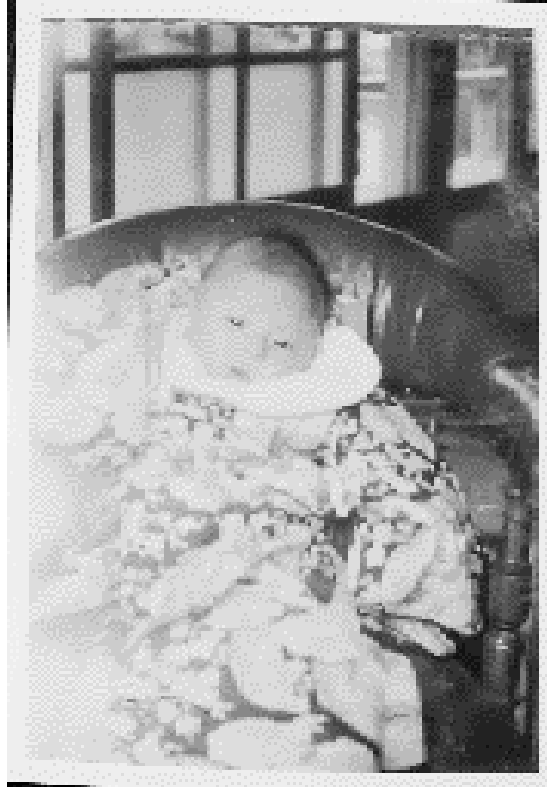
飛行場、軍需工場があったから壊滅状態になった。

叔母達ですら軍需工場に車で通ったとも聞いている。

その時は大きいお婆ちゃんが守をしてくれていたのだろうか。

浜松大空襲の日、父は見付中にいた。

母は浜松女学校の宿直で、命は落とさなかった。



女学校の保健室で

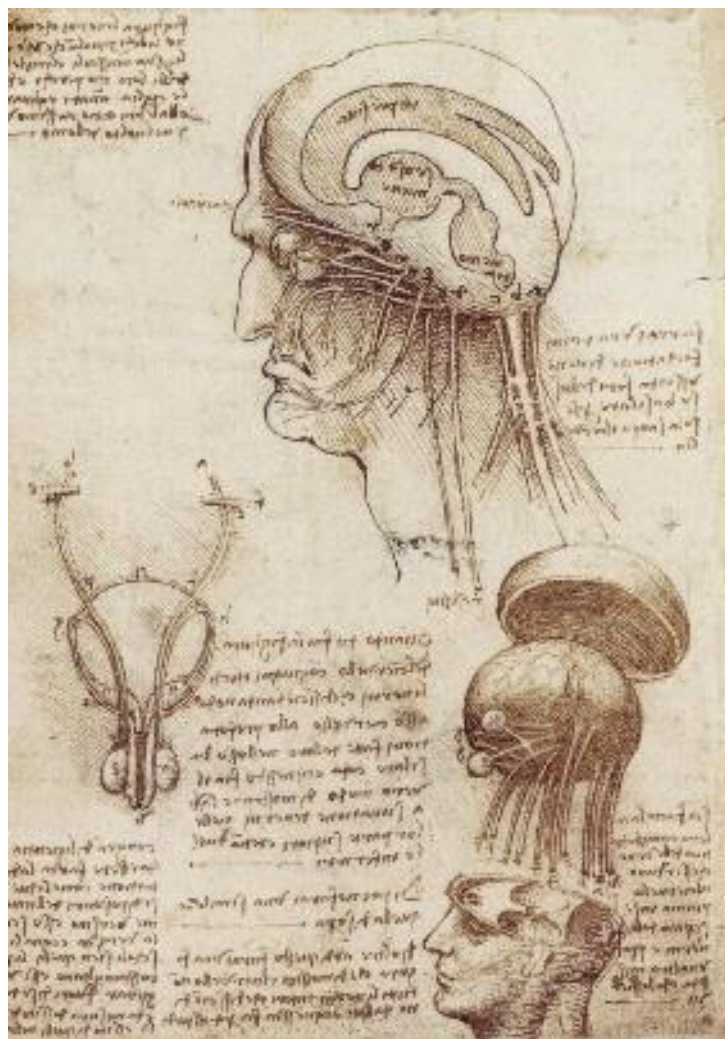
「死んだらどうなるのだろう」 6

ふぁ爺

私の脳は、私の知らない「無意識」を生じているわけだが、他にも私の知らない何かを発生させているかもしれない。例えば、「守護霊」とか「背後霊」などと呼ばれているものがそうだとしたら…。

守護霊や背後霊を、自分が創っているのか他人が創ってくれているのかはべつとして、そういった霊という類のものを感知できる人がいる。私は全く感知できないのだが、だからと言ってその存在を頭から否定することも出来ない。

時折遭遇する不思議な出来事、物事には因と果があるという考えを採ると、未だ知らない存在を仮定したくなるからだ。





萩の花

編集後記

梅雨明け前から猛暑続き。
橋本の七夕祭りが8月にある。
平塚では7月にあった。
相模線、横浜線を使えば便利な所だ。
立秋も近い。

秋野

midori2shin@gmail.com